わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！

島根県の埋蔵文化財情報誌

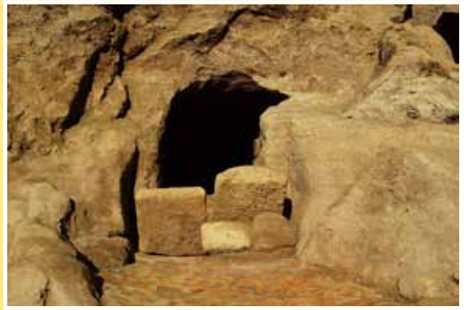
ドキ土器 まいぶん No.59

発掘された横穴墓群

発掘した6基の横穴墓は、右上の4基と左下の2基の2つのまとまりがあります。ここに葬られた人々は同じ一族と考えられますが、とくに縁が深い2つのグループが少し場所を変えて葬られたのではないでしょうか。

明瞭に残った工具の痕跡

横穴を掘った時についた掘削跡です。天井から床に向かって整然とつけられており、あたかも蛇腹のようです。



横穴墓をふさいだ石の一部

工具の痕跡がよく残る横穴墓群

❶ のの子谷横穴墓群（出雲市湖陵町）

出雲湖陵道路建設に伴い、10月から12月にかけて発掘調査を行いました。この横穴墓群は12基以上で構成され、6基について発掘調査を実施しました。

発掘の結果、これらの横穴墓は古墳時代の終わり（7世紀頃）に作られたことがわかりました。いずれの横穴墓も岩盤に掘られており、壁や天井には横穴を掘った時についた工具の痕跡が、はっきりと残っていました。残念ながらすべて後世に盗掘され、横穴内部には副葬品などは残っていませんでしたが、横穴を塞いだ石が一部に残されていました。

MAP

埋文センター講演会を開催しました

●講演会「弥生のタイムカプセル　西川津遺跡」

12月5日（土）に松江市市民活動センターで、山陰地方を代表する弥生時代の集落遺跡である松江市西川津遺跡の発掘調査成果をテーマに、講演会を開催しました。

はじめに愛媛大学吉田広准教授の講演があり、西日本各地の事例を紹介しながら、西川津遺跡が出雲を代表する弥生時代の拠点集落であることを示されました。

続いて発掘調査担当者らによる報告が行われ、県内の弥生遺跡の状況を明らかにしました。

最後に県立八雲立つ風土記の丘の松本所長を司会に、西川津遺跡の調査成果についてシンポジウムを行いました。約90人の聴講者が見守る中、西川津遺跡の意義について意見が交わされました。

シンポジウムのようす

一度は行ってみたい遺跡

邑智郡川本町　丸山城跡（まるやまじょうあと）

邑智郡川本町にある山城です。1580年代に地元の有力国人・小笠原氏によって築城されましたが、10年足らずで廃城となりました。

平成５～８年に、川本町教育委員会によって発掘調査が行われ、礎石建物跡や石垣などが発見されました。

この城は、山城でありながら石垣や居館が造られた特異な城です。建物の礎石や石垣は非常に良い状態で残されています。

なお、この城跡は「丸山森林浴公園わんぱくの森」となっており、近くまで車で行くことができます。

丸山城縄張り図
（『石見の城館跡』1997より）

まいぶん 出土遺物カード11

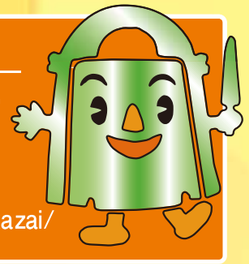
神戸川上流の縄文土器（飯南町下山遺跡ほか）

島根県は、以前は縄文時代の遺跡が少ないとされてきましたが、神戸川上流の志津見（しつみ）ダム建設に伴う発掘調査で多くの遺跡が発見されました。また、その後に発掘された斐伊川上流の尾原ダム建設地内でもたくさんの縄文遺跡が発掘され、現在では埋蔵文化財センターに多くの縄文資料が収蔵されています。

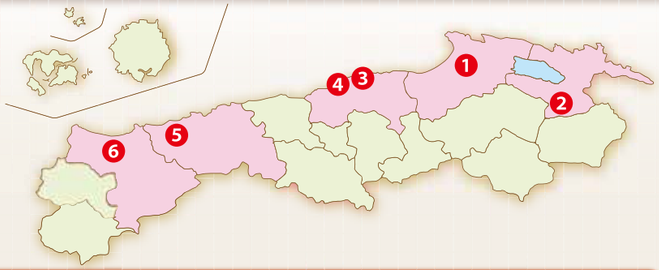
縄文土器には、様々な文様がつけられています。写真の土器は、縄文時代後期（約 4400 年前）の土器です。磨消（すりけ）し縄文という手法で文様で描かれた渦巻文様などは、現代人の目にも見事です。最近の研究で、島根県東部の磨消し縄文土器は西日本でも独特な文様が描かれていることがわかりました。

島根県の埋蔵文化財情報誌
ドキ土器 まいぶん
No.59　発行：平成28年3月

編集・発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131　松江市打出町33
TEL.0852-36-8608　FAX.0852-36-8025
E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp
http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/



島根県の最新発掘情報 平成27年度（下期）
GUIDE 発掘調査ガイド



数十万年前～	約12000年前～	紀元前5世紀～	3世紀～	7世紀～	710～	794～	1192～	1338～			1573～	1603～
旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代		安土桃山時代	江戸時代
	④	③	⑤⑥	①		②	③					

●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようお願いします。

■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　TEL 0852-36-8608
（⑥については益田市教育委員会文化財課　TEL 0856-31-0623 にお問い合わせ下さい。）

国府の中心部を発掘　❷史跡出雲国府跡（松江市大草町）

今年度から、国府の中心である国庁を明らかにするため、発掘調査を再開しました。今回の調査は、昭和43～45年、平成11～23年の調査に次いで3期目となります。

今年度は、国庁中心部と考えられている六所神社の周辺を発掘調査し、国庁北側を区画すると考えられる溝が発見されました。今回の発見は、これまで不明だった国庁の範囲や規模を推定する資料となります。

今回の発掘調査では、500点以上の中世の土器が出土し、出雲国府が中世にも役所の機能が継続していたことがわかりました。

国庁を区画する溝

柱穴からはたくさんの土器が出土しました。

出土した大量の中世の土器

室町時代の館跡を発掘　❸大国地頭所遺跡（大田市仁摩町）

静間仁摩道路建設に伴い、６月から発掘調査を行いました。潮川の北側に位置し、丘陵裾の低地に立地する遺跡です。調査区の中央で幅２mの大きな溝が発見されました。この溝から西側では、石組み遺構やたくさんの柱穴が検出されていることから、室町時代の有力者の館跡と考えられます。大溝は、館を区画するためのものかもしれません。土師器や備前焼の擂鉢のほか、中国や朝鮮半島で作られた碗などが出土しました。

中世の土層の下からは、弥生時代から平安時代にかけての集落が発見されました。写真の土器は、小型で非実用的な土器で、祭祀用に使われたと考えられています。

中世の大溝

中世の石組み遺構

下層から出土した祭祀用土器（古墳時代）

縄文時代の巨木を発見　❹古屋敷遺跡（大田市仁摩町）

潮川南側の低湿地にある遺跡です。静間仁摩道路建設に伴い、3年間にわたり発掘調査を行いました。最終的には、地表面から約3.5m下まで掘り下げ、最下層からは、縄文時代後期の土器（約4500年前）が出土しています。今年度は、縄文時代晩期の柱やクルミ・トチの殻を廃棄した跡が発見されました。柱は直径が約20cmあり、縄文時代の柱としては大きなものです。島根県では縄文時代の柱が発見されたのは初めてです。

また、遺跡を横切る河川跡からは直径80cmの大木が倒れた状態で出土しました。川岸の巨木が氾濫などで流されたのでしょうか。

縄文時代晩期の柱

河川跡で出土した巨木

MAP

古代・中世の木製品が出土　❺角落し遺跡（浜田市三隅町）

三隅益田道路建設に伴い、９月から発掘調査を行いました。角落し遺跡は、三隅川の河口を望む谷にあり、古墳時代中頃（５世紀頃）と平安時代終りから鎌倉時代（11 世紀～ 12 世紀）にかけての土器が出土しています。

古墳時代の土器は集中して出土しており、なかには完全な形に近いものもありました。平安時代から鎌倉時代の出土品は、中国製陶磁器のほか、田下駄などの木製品も出土しました。

まとまって出土した古墳時代の土器

田下駄の出土状況

MAP

石見最大の前方後円墳　❻大元１号墳（益田市遠田町）

写真提供　益田市教育委員会

大元古墳群は前方後円墳１基と円墳2基で構成されています。1号墳は全長88mと、石見地方最大、島根県で2番目の大きさを誇る前方後円墳です。国指定史跡に向けて、規模や築造時期など、基礎的な情報を得るために益田市教育委員会が発掘調査を行っています。

今年度は、前方部に2か所の試掘坑を設けて調査し、築造された当時の様子を探りました。前方部は斜面の中ほどに平坦面がめぐっています。この平坦面から上に葺石が貼り付けられていました。葺石は、古墳を荘厳に見せるために貼り付けられたと考えられています。

MAP

大元古墳群（木がない部分が１号墳）

墳丘上段に貼られた葺石